

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について

R7.7.30 秋田県教育委員会

概 観

- 平成19年度の調査開始以来、連続して概ね良好な状況にある。
 - ・各教科の平均正答率・平均IRTスコアは、小・中学校ともに全国平均を上回っている。
 - ・オンラインによる回答方式で実施された児童生徒質問調査及び学校質問調査の多くの質問項目において、肯定的な回答の割合が全国平均を上回っている。
- 各教科の概ね良好な状況に加え、児童生徒質問調査及び学校質問調査の結果には、児童生徒が望ましい生活習慣や学習習慣を身に付けている状況が表れている。
- このような状況は、“秋田わか杉 七つの「はぐくみ」”に示している本県の優れた教育環境によるものであり、学校、家庭、地域、大学等が手を携え、オール秋田で成し遂げられたものであると捉えている。

“秋田わか杉 七つの「はぐくみ」”にみる秋田の優れた教育環境

- ・児童生徒の望ましい生活習慣・学習習慣
- ・各学校における児童生徒一人一人へのきめ細かな指導と授業改善への取組
- ・学校と家庭、地域との連携・協働による質の高い教育力

- 県教育委員会では、今年度を含めた計17回の調査結果により、これまでの施策・事業について一定の評価ができると捉えている。特に、少人数学習推進事業、県学習状況調査、ICT事業、各学校が共同研究体制のもと実施している授業改善の取組等は、成果を上げているものと考えている。
- 今後も、教育関係者はもとより、県民の皆様の御理解と御協力をいただきながら、オール秋田で「ふるさとを愛し、社会を支える自覚と高い志にあふれる人づくり」を目指し、「教育立県あきた」の実現に努めていく。

調査結果の活用

- 各学校においては、提供された自校の結果を基に、成果と課題を明らかにし、指導の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の課題の解決に向けた取組を組織的に進めることになる。
- 県教育委員会では、検証改善委員会を立ち上げ、これまでの課題の改善状況や今年度の結果から明らかになった課題等について詳細な分析を進め、調査結果の概要を提供するなどして各学校を支援していく。
- 今後も、国と県の学習状況調査及び高校入試を一体として捉えた本県独自の検証改善サイクルを更に機能させていく。具体的には、本調査で見られた課題の解決に向けて、課題改善サポート問題を作成し、各学校に提供するとともに、県学習状況調査等で課題の改善状況を把握する。また、高校入試においても、思考力・判断力・表現力等を用いて解決する問題を出題するなどし、確かな学力を身に付けた児童生徒の育成に努めていく。

教科に関する調査の結果

◆概 要

- 本県の平均正答率・平均IRTスコアは、小・中学校ともに全ての教科において全国平均を上回っており、良好な状況である。
- 小・中学校ともに、多くの問題（小：91.5%、中：68.6%）において、本県の平均正答率は全国平均を上回っている。
- 小学校では全ての問題（100%）、中学校では多くの問題（98.0%）において、無解答率が全国平均以下になっている。
- 正答率が十分ではない問題については、指導の改善・充実を図り、学習内容を定着させていく必要がある。

* 中学校の数値は、国語、数学の調査結果及び理科の公開問題の調査結果を基に算出しています。

◆平均正答率 [%] ・ 平均IRTスコア

※（ ）内の数値は全国比

年度	小 学 校 6 年 生			中 学 校 3 年 生			
	国語	算数	理科	国語	数学	理科	英語
R7	71 (+4)	60 (+2)	61 (+4)	57 (+3)	49 (+1)	516 (+13)	
R6	73 (+5)	65 (+2)		60 (+2)	53 (±0)		
R5	72 (+5)	65 (+2)		74 (+4)	52 (+1)		44 (-2)
R4	71 (+5)	66 (+3)	71 (+8)	73 (+4)	54 (+3)	52 (+3)	
R3	71 (+6)	72 (+2)		68 (+3)	60 (+3)		
H31 (R1)	74 (+10)	70 (+3)		78 (+5)	65 (+5)		57 (+1)

	国語A (知識)	国語B (活用)	算数A (知識)	算数B (活用)	理科	国語A (知識)	国語B (活用)	数学A (知識)	数学B (活用)	理科	
H30	77 (+6)	61 (+6)	67 (+3)	57 (+5)	66 (+6)	80 (+4)	66 (+5)	70 (+4)	51 (+4)	70 (+4)	
H19	86.1 (+4.4)	69.0 (+7.0)	88.4 (+6.3)	68.6 (+5.0)		85.4 (+3.8)	77.0 (+5.0)	77.5 (+5.6)	65.3 (+4.7)		

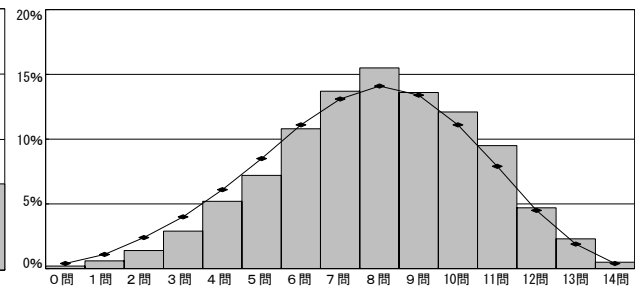
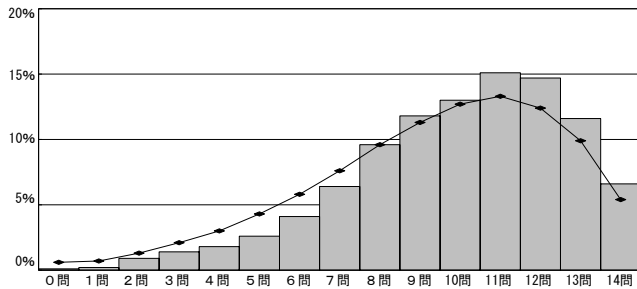
- * 令和7年度の中学校理科の数値は、平均IRTスコアです。IRTスコアとは、IRT（項目反応理論）に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。
- * 各教科の平均正答率は、当該教科における設問ごとの正答率の平均として求めた値と同じといえます。
- * 令和2年度調査は、新型コロナウイルス感染症の影響等を考慮し、実施されませんでした。
- * 平成31年度（令和元年度）から、従来のA問題（知識）とB問題（活用）を一体的に問う調査問題で実施されています。
- * 平成31年度（令和元年度）及び令和5年度の中学校英語の数値は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」を集計したものです。
- * 全国比は、文部科学省が公表した全国平均正答率を四捨五入し、整数値として算出しています。
- * 都道府県別の平均正答率は、文部科学省が平成28年度から整数値で公表しています。

各教科の成果と課題

【国語】 棒グラフ：秋田県、折れ線グラフ：全国（横軸は正答数、縦軸は児童生徒の人数の割合）

＜小学校＞

＜中学校＞



◇平均正答率 [%]

※（ ）内の数値は全国比

		全体	学習指導要領の内容						問題形式		
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			選択式	短答式	記述式
			(1)	(2)	(3)	A	B	C			
小学校	秋田県	71	83.4	69.1	85.0	69.2	73.2	61.7	67.8	84.3	66.0
	全国	66.8	(+6.5)	(+6.0)	(+3.8)	(+2.9)	(+3.7)	(+4.2)	(+3.1)	(+5.8)	(+7.2)

		全体	学習指導要領の内容						問題形式		
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			選択式	短答式	記述式
			(1)	(2)	(3)	A	B	C			
中学校	秋田県	57	51.4	—	—	55.7	55.1	64.3	66.2	78.6	26.7
	全国	54.3	(+3.3)	—	—	(+2.5)	(+2.3)	(+2.0)	(+2.3)	(+5.0)	(+1.4)

(1)言語の特徴や使い方に関する事項 (2)情報の扱い方に関する事項 (3)我が国の言語文化に関する事項 A話すこと・聞くこと B書くこと C読むこと
*中学校では、学習指導要領の内容「知識及び技能(2)(3)」に基づいた出題はなされていないため、「—」と表している。

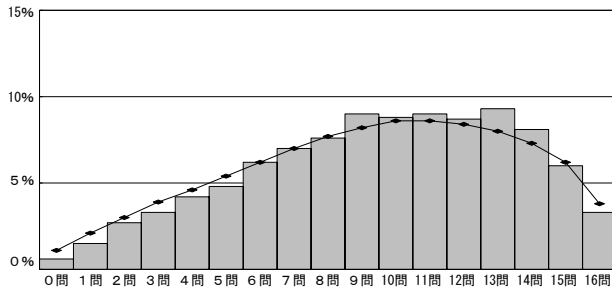
- 平均正答率は、小学校で4ポイント以上、中学校で3ポイント程度、全国平均を上回っている。
- 小・中学校ともに「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」の全てにおいて2ポイント以上、全国平均を上回っている。また、小学校では、「記述式」の問題形式において7ポイント以上、全国平均を上回っている。
- 小学校では、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに課題が見られる。
- 中学校では、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことや、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることに課題が見られる。

●指導の改善が求められる問題

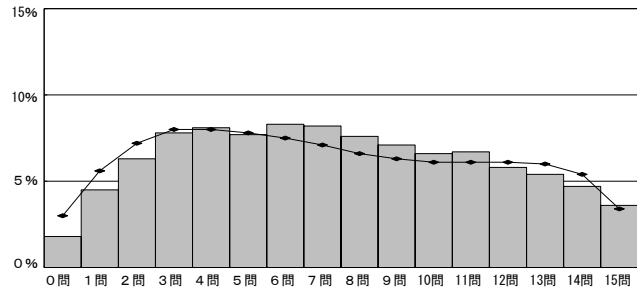
	問題番号	平均正答率(%)		問題の概要	出題の趣旨
		秋田県	全国		
小学校	1一	55.3	53.3	【話し合いの様子】における小森さんの傍線部の発言を説明したものとして適切なものを選択する。	目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる。
	3三(1)	41.3	40.8	【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する。	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる。
中学校	1三	64.4	63.3	ちらしの中の情報について、示す位置を変えた意図を説明したものとして適切なものを選択する。	書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることができるかどうかをみる。
	1四	30.5	31.0	ちらしの読み手に向けて、今年の美術展の工夫について伝える文章を書く。	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる。
	4二	31.9	30.1	手話の下書きを見直し、修正した方がよい部分を見つけて修正し、修正した方がよいと考えた理由を書く。	読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる。

【算数・数学】 棒グラフ：秋田県、折れ線グラフ：全国（横軸は正答数、縦軸は児童生徒の人数の割合）

＜小学校＞



＜中学校＞



◇平均正答率 [%]

※（ ）内の数値は全国比

		全体	学習指導要領の領域					問題形式		
			A数と計算	B図形	C測定	C変化と関係	Dデータの活用	選択式	短答式	記述式
小学校	秋田県	60	63.3	58.0	54.9	56.0	65.3	68.2	65.4	37.9
	全国	58.0	(+1.0)	(+1.8)	(+0.1)	(-1.5)	(+2.7)	(+1.0)	(+1.4)	(+3.0)

		全体	学習指導要領の領域				問題形式		
			A数と式	B図形	C関数	Dデータの活用	選択式	短答式	記述式
中学校	秋田県	49	46.2	45.9	48.9	60.0	57.8	51.4	41.5
	全国	48.3	(+2.7)	(-0.6)	(+0.7)	(+1.4)	(+3.8)	(-0.6)	(+1.9)

- 平均正答率は、小学校は2ポイント程度、中学校は1ポイント程度全国平均を上回っている。
- 「記述式」の問題形式において、小学校では3ポイント程度、中学校では2ポイント程度全国平均を上回っている。
- 小学校では、分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述することや、「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことに課題が見られる。
- 中学校では、一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めることや、式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することに課題が見られる。

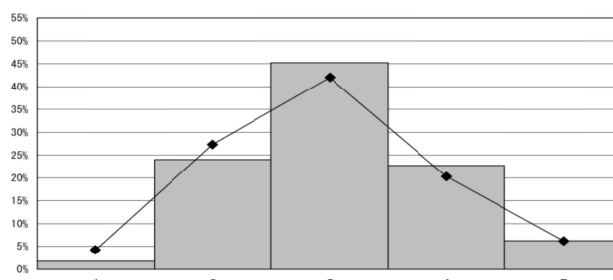
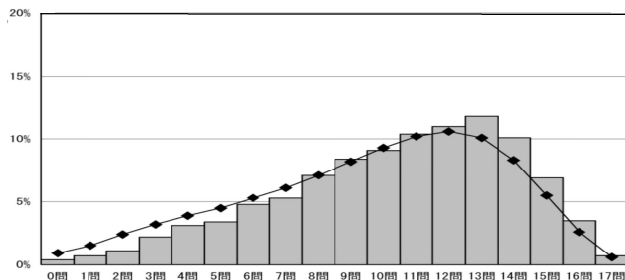
●指導の改善が求められる問題

	問題番号	平均正答率 (%)		問題の概要	出題の趣旨
		秋田県	全国		
小学校	3 (2)	24.7	23.0	3/4 + 2/3 について、共通する単位分数と、3/4 と 2/3 が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く。	分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。
	4 (2)	48.5	48.7	使いかけのハンドソープがあきと何プッシュすることができるとのかを調べるために、必要な事柄を判断し、求め方を書く。	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。
	4 (4)	37.1	40.9	10%増量したつめかえ用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍かを選ぶ。	「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる。
中学校	4	32.1	34.7	一次関数 $y = 6x + 5$ について、 x の増加量が2のときの y の増加量を求める。	一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めることができるかどうかをみる。
	6 (2)	24.4	25.7	$3n$ と $3n+3$ の和を $2(3n+1)+1$ と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であるかを説明する。	式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる。
	9 (2)	34.5	36.3	平行四辺形 ABCD の辺 CB、AD を延長した直線上に BE = DF となる点 E、F を取っても、四角形 AECF は平行四辺形となることの証明を完成する。	統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができるかどうかをみる。

【理科】 棒グラフ：秋田県、折れ線グラフ：全国、縦軸：児童生徒の割合

〈小学校〉正答数分布グラフ（横軸：正答数）

〈中学校〉I R Tバンドグラフ（横軸：I R Tバンド）



◇小学校の平均正答率 [%] と中学校の平均 I R T スコア

※（ ）内の数値は全国比

		全体	学習指導要領の領域				問題形式		
			エネルギー	粒子	生命	地球	選択式	短答式	記述式
小学校	秋田県	61	46.9	54.9	58.9	72.0	56.7	73.9	60.7
	全 国	57.1	(+0.2)	(+3.5)	(+6.9)	(+5.3)	(+2.0)	(+4.2)	(+15.5)
		全体	学習指導要領の領域				問題形式		
			エネルギー	粒子	生命	地球	選択式	短答式	記述式
中学校	秋田県	516	—	—	—	—	—	—	—
	全 国	503	—	—	—	—	—	—	—

* 中学校では、学習指導要領の領域及び問題形式ごとの平均正答率等は公表されていないため、「—」と表している。

- 小学校では平均正答率が4ポイント程度、中学校ではI R Tスコアが13ポイント、全国の値を上回っている。
- 小学校では、「生命」及び「地球」を柱とする領域において5ポイント以上、全国平均を上回っている。中学校では、全国と比べてI R Tバンド1、2の生徒の割合が低く、I R Tバンド3、4の生徒の割合が高くなっている。
- 小学校では、電気を通す物と磁石に引き付けられる物に関する知識を身に付けること、乾電池の直列つなぎに関する知識を身に付けることに課題が見られる。
- 中学校では、生命を維持する働きに関する知識を概念として身に付けること、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明すること、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現することに課題が見られる。

●指導の改善が求められる問題

	問題番号	平均正答率(%)		問 題 の 概 要	出 題 の 趣 旨
		秋田県	全 国		
小学校	②(1)	11.3	10.6	アルミニウム、鉄、銅について電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ。	身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる。
	②(4)	54.0	55.1	乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ。	乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる。
中学校	①(4)	23.6	29.7	生物1から生物4までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する。	水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる。
	②(1)	15.2	14.0	【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する。	【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうかをみる。
	⑧(2)	15.9	18.1	Aさんの考えを肯定するためにはボーリング地点③の結果がどのようなになればよいかを判断し、青色の地層を移動させ、ボーリング地点③の結果をモデルで示す。	大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現できるかどうかをみる。

児童生徒質問調査の結果

※数値は「している」「どちらかといえば、している」等、肯定的な回答の割合（％）
（ ）内の数値は、肯定的な回答のうち「している」等と回答した割合（％）

【生活習慣】

○全体として、望ましい生活習慣が定着していると考えられる。

質 問 事 項	小学校 6 年生		中学校 3 年生	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
朝食を毎日食べていますか。	94.8 (85.7)	+ 1.1 (+ 2.4)	94.5 (84.3)	+ 3.3 (+ 5.6)
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。	92.3 (58.7)	+ 1.3 (+ 3.1)	94.3 (60.8)	+ 1.7 (+ 6.1)

【学習習慣】

○家庭学習に主体的に取り組むなど、望ましい学習習慣が定着していると考えられる。

質 問 事 項	小学校 6 年生		中学校 3 年生	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。	(30分以上) 92.7	+11.3	(1時間以上) 68.9	+ 7.3
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。	(1時間以上) 72.9	+25.8	(2時間以上) 46.0	+13.5

【豊かな人間性等】

○自己肯定感が醸成され、将来の夢や目標をもって生活している様子がうかがえる。
○学校生活や他者と交流することを楽しさを感じている様子がうかがえる。
○地域や社会への関心をもち、貢献したいという気持ちがあることがうかがえる。

質 問 事 項	小学校 6 年生		中学校 3 年生	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
自分には、よいところがあると思いますか。	89.7 (52.0)	+ 2.8 (+ 4.7)	89.3 (43.9)	+ 3.1 (+ 3.2)
将来の夢や目標を持っていますか。	88.5 (67.8)	+ 5.4 (+ 7.1)	74.8 (41.4)	+ 7.3 (+ 5.9)
学校に行くのは楽しいと思いますか。	88.9 (51.5)	+ 2.4 (+ 1.6)	88.4 (50.0)	+ 2.3 (+ 4.4)
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。	83.1 (36.9)	+ 5.0 (+ 4.3)	84.7 (36.8)	+ 5.5 (+ 5.4)
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。	90.1 (47.8)	+ 8.8 (+14.0)	86.5 (36.1)	+11.2 (+13.7)

【授業等の教育活動】

- 課題解決に向けて、児童生徒が、自ら考え主体的に学習に取り組むことや、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができている。
- 多くの児童生徒が、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができているという意識をもっている。
- 国語の授業では、文章と図表との関連を捉えたり、文章の構成や展開の効果を考えたりする学習経験を積み重ねることがうかがえる。
- 算数（数学）の授業では、自分の考えを数学的に表現する活動が取り入れられていることがうかがえる。
- 理科の授業では、自分で予想（仮説）を考え、観察や実験を計画的に行っていることがうかがえる。

質 問 事 項	小学校 6 年生		中学校 3 年生	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。	85.2 (34.6)	+ 4.9 (+ 5.6)	84.3 (29.1)	+ 6.6 (+ 5.7)
学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。	89.5 (49.6)	+ 4.6 (+ 8.7)	89.7 (45.1)	+ 5.0 (+10.0)
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。	86.5 (40.2)	+ 7.1 (+ 9.0)	81.1 (30.6)	+ 7.7 (+ 7.6)
国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けていますか。 [新規]	85.6 (35.5)	+ 6.5 (+ 5.7)		
国語の授業で、文章を読み、その文章の構成や展開に、どのような効果があるのかについて、根拠を明確にして考えていますか。 [新規]			81.2 (32.4)	+ 7.2 (+ 5.5)
算数（数学）の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか。 [新規]	72.9 (34.6)	+ 7.4 (+ 5.3)	72.1 (32.1)	+13.5 (+11.0)
自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしていますか。	76.9 (38.8)	+ 8.0 (+ 7.1)	67.1 (25.4)	+10.9 (+ 7.4)
理科の授業では、問題に対して答えがどのようになるのか、自分で予想（仮説）を考えていますか。 [新規]	89.6 (54.9)	+ 3.9 (+ 5.4)		
理科の授業では、自分の予想（仮説）をもとに観察や実験の計画を立てていますか。			83.3 (39.2)	+13.1 (+12.9)

【ＩＣＴを活用した学習状況】

- ＩＣＴ機器の活用頻度（ほぼ毎日）は全国平均を上回り、ＩＣＴ機器を使って文書作成や情報整理等を行うことに自信をもっていることがうかがえる。

質 問 事 項	小学校 6 年生		中学校 3 年生	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
前年度までに受けた授業で、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、どの程度使用しましたか。	(ほぼ毎日(複数の授業)) 26.7		(ほぼ毎日(複数の授業)) 31.3	
あなたは自分がＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができますか。 [新規]	84.1 (40.9)	+ 2.3 (+ 1.6)	87.9 (40.3)	+ 4.3 (+ 3.9)
あなたは自分がＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができますか。 [新規]	70.9 (27.6)	+ 1.6 (+ 0.7)	67.0 (22.2)	+ 3.7 (+ 1.1)

学校質問調査の結果

※数値は「よく行った」「どちらかといえば、行った」等、肯定的な回答の割合（％）
（ ）内の数値は、肯定的な回答のうち「よく行った」等と回答した割合（％）

【授業等の教育活動】

- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて学習過程を工夫し、問題解決のプロセスを重視した探究型授業の充実を図っている。
- 児童生徒の主体的な課題解決を促すため、学習過程を見通した指導方法を工夫している。
- 家庭学習の取り組み方の指導について、肯定的な回答のうち「よく行った」と回答した学校の割合が全国平均を大きく上回っており、学校全体での具体的な指導を通して習慣化につなげている。
- 学習指導において、児童生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫していると回答した学校の割合が全国平均を下回っている。

質 問 事 項	小 学 校		中 学 校	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか。	98.8 (41.7)	+ 2.5 (- 3.1)	96.1 (31.7)	+ 1.4 (- 7.7)
授業では、児童生徒が課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。	94.1 (27.4)	+ 4.8 (+ 4.9)	87.5 (25.0)	- 0.7 (+ 4.0)
前年度までに、学習指導において、児童生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか。	88.1 (21.4)	- 2.9 (- 6.7)	87.5 (21.2)	- 0.3 (- 2.4)
前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか。	89.9 (14.9)	+ 1.3 (- 7.1)	88.5 (18.3)	+ 1.7 (- 1.8)
前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか。	93.5 (16.1)	+ 6.6 (- 3.6)	89.5 (13.5)	+ 9.2 (- 1.9)
前年度までに、国語の授業で、学習状況に即して児童生徒のよい点や進歩の状況を積極的に伝えることを行いましたか。 [新規]	98.3 (31.0)	+ 2.6 (- 3.9)	98.1 (46.2)	+ 1.3 (+ 6.0)
算数（数学）の授業において、前年度までに、日常生活や社会における事象との関連を図った授業を行いましたか。 [新規]	94.1 (27.4)	+ 2.8 (- 1.0)	93.3 (30.8)	+ 3.7 (+ 5.2)
理科の授業において、前年度までに、自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行いましたか。	98.8 (41.1)	+ 3.8 (+ 7.1)	97.1 (50.0)	+ 0.9 (+13.4)
理科の授業において、前年度までに、問題に対して、既習の内容や生活経験を基に、予想や仮説を発想することができるような指導を行いましたか。 [新規]	98.2 (48.2)	+ 1.5 (+ 4.3)	98.1 (54.8)	+ 4.2 (+17.8)
前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか。	100.0 (72.0)	+ 3.4 (+22.7)	98.0 (53.8)	+ 5.2 (+19.3)
前年度までに、家庭学習について、児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか。	96.4 (60.7)	+ 5.8 (+22.5)	100.0 (54.8)	+14.1 (+27.7)

【ＩＣＴを活用した学習状況】

- 教員がＩＣＴ機器の使い方を学ぶ研修機会があると回答した学校の割合は、９割を超えている。
- 自分の考えをまとめ、発表・表現する場面や児童生徒同士のやりとりする場面において、ＩＣＴ機器をほぼ毎日使用させていると回答した学校の割合は全国平均を下回る項目があるものの、昨年度に比べてＩＣＴ機器の活用が促進されている。
- 児童生徒一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどの端末を、日常的に家庭に持ち帰って活用させる取組をしていると回答した学校の割合は、全国の平均を下回っている。

質 問 事 項	小 学 校		中 学 校	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
教員がコンピュータなどのＩＣＴ機器の使い方を学ぶために必要な研修機会有りますか。	95.3 (54.8) <R6 97.1>	－ 0.4 (－10.1) ――	91.3 (53.8) <R6 94.3>	＋ 0.5 (＋ 0.8) ――
前年度までに、児童生徒一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、授業でどの程度活用しましたか。	(ほぼ毎日(複数の授業)) 55.4 <R6 61.1>	－ 5.6 ――	(ほぼ毎日(複数の授業)) 67.3 <R6 69.5>	＋ 3.6 ――
児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童生徒一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用させていますか。	(ほぼ毎日) 19.0 <R6 17.1>	－ 2.3 ――	(ほぼ毎日) 26.0 <R6 21.0>	＋ 4.6 ――
児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用させていますか。	(ほぼ毎日) 15.5 <R6 11.4>	－ 5.9 ――	(ほぼ毎日) 23.1 <R6 12.4>	＋ 6.0 ――
児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童生徒一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用させていますか。	(ほぼ毎日) 11.3 <R6 13.7>	－ 8.2 ――	(ほぼ毎日) 11.5 <R6 5.7>	－ 5.1 ――
児童生徒一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか。	(毎日～時々) 80.4 <R6 74.8>	－ 8.6 ――	(毎日～時々) 75.0 <R6 69.6>	－12.2 ――

【家庭や地域との関わり】

- 職場見学（職場体験活動）を行っているという回答した学校の割合が、全国の平均を上回っており、児童生徒が自分の将来の姿を意識できるようにしている。
- 家庭や地域との連携を緊密にして児童生徒を育てることがうかがえる。

質 問 事 項	小 学 校		中 学 校	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
(小学校) 職場見学を行っていますか。 (中学校) 前年度に、職場体験活動を何日程度行いましたか。	(行っている) 59.5	＋14.4	(1日以上) 94.3	＋14.5
コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか。	98.8 (45.8)	＋ 5.5 (＋ 5.6)	97.1 (31.7)	＋ 8.1 (－ 0.1)

全国学力・学習状況調査結果の活用

◆概 要

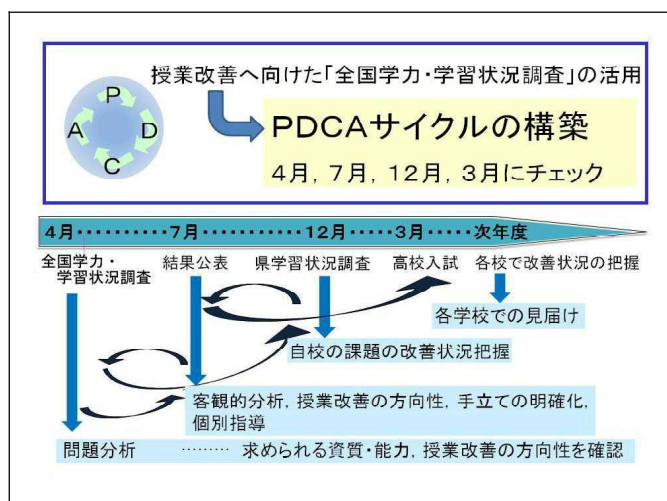
- ほとんどの学校が、全国学力・学習状況調査の自校の結果を全職員で共有するなどして、学校全体で教育活動を改善するために活用している。
- 保護者や地域の人たちに対して自校の調査結果を公表や説明することについて、肯定的な回答をした中学校の割合が全国平均を下回っている。

◎学校質問調査結果より

※数値は「よく行った」「行った」等、肯定的な回答の割合（％）
（ ）内の数値は、肯定的な回答のうち「よく行った」等と回答した割合（％）

質 問 事 項	小 学 校		中 学 校	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
令和6年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。	99.4 (41.1)	+ 2.9 (+ 3.8)	96.1 (24.0)	+ 2.1 (- 5.4)
令和6年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか（学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む）。	94.1 (26.8)	+ 5.1 (- 0.9)	79.8 (18.3)	- 3.6 (- 7.5)

○県教育委員会は、調査を有効に活用し、全国学力・学習状況調査、県学習状況調査及び高校入試を一体として捉えた検証改善サイクルを機能させることで、確かな学力を身に付けた児童生徒の育成に向けた各学校の取組を支援しています。



☆学力向上関連事業等

◆これまでの主な事業等

- 少人数学習推進事業〔少人数学級、ティーム・ティーチング等による少人数授業〕
(H13～)
- 学習状況調査事業 (H14～)
- 教育専門監の配置 (H17～、義務教育課はH18～)
- 算数・数学学力向上推進事業 (H17～22)
- 学力向上推進事業 (H23～)
- “「問い」を発する子ども”の育成のための指針の作成 (H24)
- 秋田わか杉 七つの「はぐくみ」 (H27～)
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善充実事業 (H30、R1)

◆今年度の事業等

- 少人数学習推進事業
 - ・小学校第1学年から中学校第3学年までの全ての学年で少人数学習を実施
- 学力向上推進事業
 - (1) 学習状況調査事業
 - (2) あきたの教育力充実事業
 - ①学校訪問指導
 - ②学力向上支援Web・学習ポータルサイト
 - ③理数才能育成プロジェクト
 - ④検証改善委員会
 - ⑤オンライン・ミーティング
 - ⑥ICT活用リーダー研修
 - (3) ICTを活用した授業力向上事業
- キャリア教育実践研究事業
 - ・キャリア教育実践研究協議会
- AKITAグローバル人材育成事業
 - (1) 発信力強化プロジェクト事業
 - (2) グローバルコミュニケーションプロジェクト事業
 - (3) 指導力向上プロジェクト事業

資料 1

本県における全国学力・学習状況調査への参加概況(教科に関する調査)

○小学校

- ・参加校数 169校（内訳：市町村立165、義務教育学校前期課程3、秋田大学教育文化学部附属1）

※すべての学校が令和7年4月17日に調査を実施

- ・参加児童数（令和7年4月17日に調査を実施した人数）

	公 立	秋大附属
国 語	5,664 人	(95 人)
算 数	5,663 人	(95 人)
理 科	5,663 人	(95 人)

※秋田大学教育文化学部附属小学校については、実施予定人数

○中学校

- ・参加校数 105校（内訳：県立2、市町村立98、義務教育学校後期課程3、特別支援学校1、秋田大学教育文化学部附属1）

※国語、数学はすべての学校が令和7年4月17日に調査を実施

※理科はすべての学校が令和7年4月14日から4月17日までの間で、各学校の希望を踏まえて文部科学省が指定した日に調査を実施

- ・参加生徒数（国語、数学は令和7年4月17日に調査を実施した人数、理科はC B Tの各実施日に調査を実施した人数の総数）

	公 立	秋大附属
国 語	5,875 人	(126 人)
数 学	5,874 人	(126 人)
理 科	5,839 人	(126 人)

※公立の学校のうち、特別支援学校の生徒は1人

※秋田大学教育文化学部附属中学校については、実施予定人数

文部科学省から県教育委員会に提供されている本資料における結果（平均正答率等）は、秋田大学教育文化学部附属小・中学校を除く、公立学校分である。

資料 2


秋田わか杉 七つの「はぐくみ」

一 早寝早起き朝ごはん
生活リズムは全ての基本

二 元気なあいさつ 明るい返事
規則約束守るわか杉

三 読んで話して書いて高める
「問い」を発する思考力

四 問題解決 子どもが主体
授業の続きは家庭で学習

五 職場体験 インターンシップ
地域で育む子どものキャリア

六 学校や地域の話題で語り合い
将来の夢家族でえがく

七 ふるさとを支える自覚と志
みんなのでつくる未来の秋田

※本県の未来を担う子どもたちを「わか杉」と呼んでいます。

“秋田わか杉 七つの「はぐくみ」”の作成の経緯、基本的な考え方

県教育委員会では、平成27年度に“秋田わか杉 七つの「はぐくみ」”を作成いたしました。

全国学力・学習状況調査（文部科学省）の結果から、本県の学力やその基盤となる様々な要因については、全国からはもちろんのこと、海外からも注目される場所となりました。

「第4期あきたの教育振興に関する基本計画」を策定し、「教育立県あきた」の実現を目指す中、児童生徒質問調査等から見える児童生徒を主体とした授業づくり、家庭学習の習慣、家庭や地域の教育力等、本県の財産とも言えるオール秋田でつくるすばらしい教育環境を“秋田わか杉 七つの「はぐくみ」”として発信し、「ふるさとを愛し、社会を支える自覚と高い志にあふれる人づくり」を目指したいと考えております。